【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成28年8月4日(2016.8.4)

【公開番号】特開2015-2530(P2015-2530A)
【公開日】平成27年1月5日(2015.1.5)
【年通号数】公開・登録公報2015-001
【出願番号】特願2013-127780(P2013-127780)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　1/387　(2006.01)
Ｇ０６Ｔ　3/40　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　1/387　１０１
Ｇ０６Ｔ　3/40　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成28年6月20日(2016.6.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
データを解釈して、中間データを生成する画像形成装置であって、
データ中に周期性のある描画パターンがあるか否かを判定する手段と、
データ中に縮小命令があるか否かを判定する手段と、
データ中に周期性のある描画パターンがあると判定され且つデータ中に縮小命令があると判定された場合、前記描画パターンの周期のピッチ数と、前記縮小命令が持つ縮小率との比率を求める手段と、
前記比率と、前記画像形成装置がロードしたテーブル内の値とが一致するか否かを判定する手段と、
前記比率が前記テーブル内の値と一致すると判定された場合、画像をセル毎に分けて、セル単位で間引き処理を行うことで、前記画像を縮小する手段と
を備えたことを特徴とする画像形成装置。
【請求項２】
前記セルは、ピクセルを前記描画パターンの周期のピッチ数分だけまとめたものであることを特徴とする請求項１に記載の画像形成装置。
【請求項３】
前記データは、ＰＤＬデータであることを特徴とする請求項１に記載の画像形成装置。
【請求項４】
画像に含まれる周期性のある描画パターンを判定する判定手段と、
前記画像に縮小処理を行う縮小処理手段とを有し、
前記縮小処理手段は、前記判定手段による判定結果を用いて、前記画像に含まれる周期性のある描画パターンに応じた単位で間引き処理を行うことで、前記画像の縮小処理を行うことを特徴とする画像形成装置。
【請求項５】
前記縮小処理手段は、指示された縮小率に応じた数の描画パターンを間引くことを特徴とする請求項４に記載の画像形成装置。
【請求項６】

前記周期性のある描画パターンは、複数の画素から成ることを特徴する請求項４または５に記載の画像形成装置。

【請求項７】

画像形成装置によって実行される、データを解釈して、中間データを生成する画像処理方法であって、

データ中に周期性のある描画パターンがあるか否かを判定するステップと、

データ中に縮小命令があるか否かを判定するステップと、

データ中に周期性のある描画パターンがあると判定され且つデータ中に縮小命令があると判定された場合、前記描画パターンの周期のピッチ数と、前記縮小命令が持つ縮小率との比率を求めるステップと、

前記比率と、前記画像形成装置がロードしたテーブル内の値とが一致するか否かを判定するステップと、

前記比率が前記テーブル内の値と一致すると判定された場合、画像をセル毎に分けて、セル単位で間引き処理を行うことで、前記画像を縮小するステップと

を備えたことを特徴とする画像処理方法。

【請求項８】

画像に含まれる周期性のある描画パターンを判定する判定ステップと、

前記画像に縮小処理を行う縮小処理ステップとを有し、

前記縮小処理ステップは、前記判定ステップによる判定結果を用いて、前記画像に含まれる周期性のある描画パターンに応じた単位で間引き処理を行うことで、前記画像の縮小処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項９】

コンピュータを、請求項１乃至６の何れか一項に記載の画像形成装置として機能させるための、プログラム。